

ライフパタン研究プロジェクト とは？

(社)国際経済労働研究所
八木隆一郎

日本キャリア教育学会 近畿・中国四国地区部会第11回研究大会

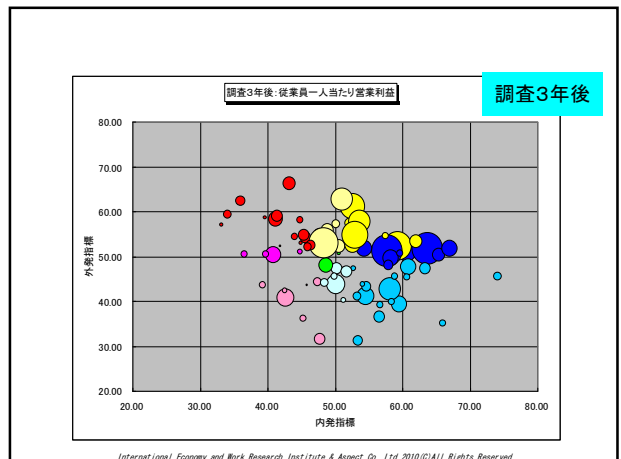
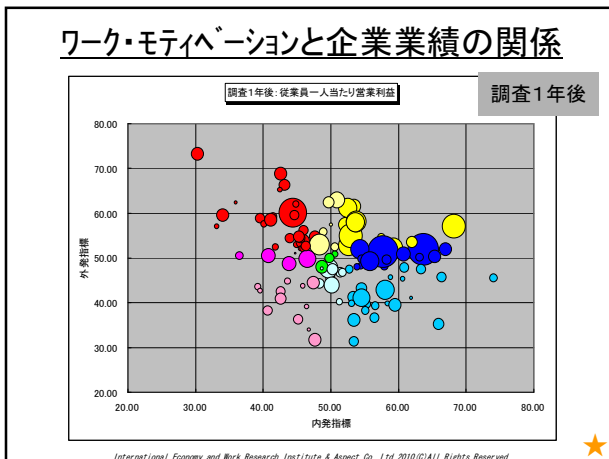
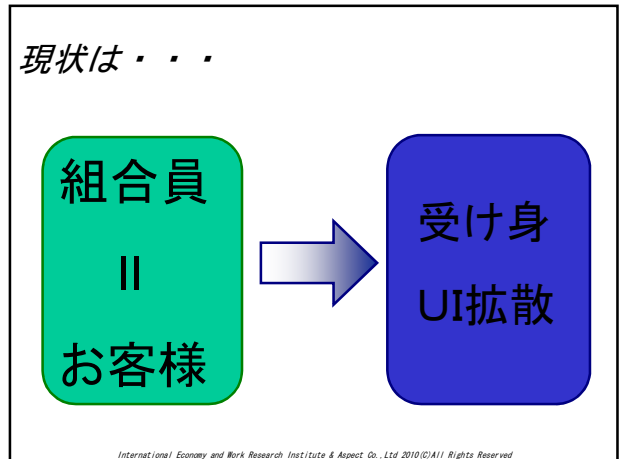
社団法人 国際経済労働研究所のあゆみ

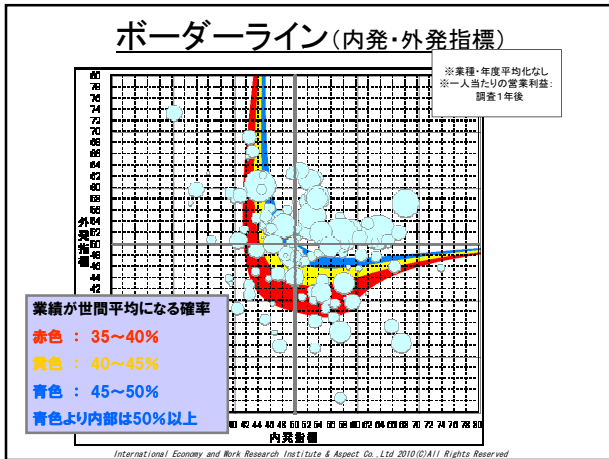
- 1948: **関西労働調査会議**
自律的な労働運動のための調査研究機能
家計調査(マーケットバスケット方式)
- 1961: **労働調査研究所(労働組合主義)**
横断賃率論(仕事別賃金:松下)
- 1988: **ONION(1989:ONION総合報告書)**
- 1990: **ONION2**プロジェクト
ONION研究会・調査設計委員会(1991)
(トヨタ、松下、全通、金属機械、全国ガス など)
- 1993: **国際経済労働研究所**
- 1996: **ONION2** 総合報告書
- 2002: **日本型企业統治研究会**
→その後、労使・海外へ展開

共同調査ON・I・ON2の参加組織

パナソニックG **キャノンG** シャープ 三洋電機 NEC 村田製作所
トヨタ 三菱自動車 マツダ、デンソー 日東電工 コニカミノルタ
イオンG イトーヨーカドー、マルイG 旭化成 住友化学 カネカ
 ユニチカ ノーリツ 関西電力 中国電力 大阪ガス コクヨ JT
三菱重工 アサヒビール サントリー キリン サッポロ コカ・コーラ
 味の素 マルハニチロ ニッスイ コカ・コーラG 伊藤ハム ニチレイ
 キッコーマン 富士ゼロックス・富士フィルム テルモ **武田薬品**
 ツムラ **日本郵政G** パナホーム 日本ユニシス 東京三菱UFJニコス
 大日本印刷 伊藤忠商事 三井住友海上 ライオン 阪急 阿波銀行
 東洋インキ 日本精工 NTN 山武 カシオ 全コマツ 島津
 シチズンG OFS(**オリエンタルランド**) UCA(USJ) **NTTグループ**
 など

全国の190以上の組織 参加組織人員約141万人





- 日本型企業文化にはたくさんの利点
 - 改善は必要だけれども、この15年間に壊してはならないものまで壊してきた可能性

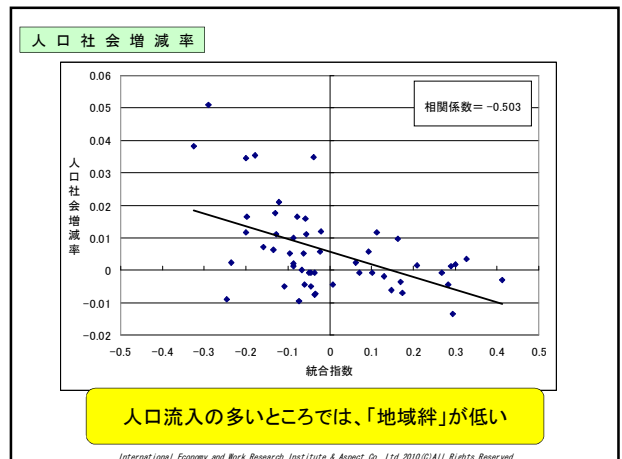
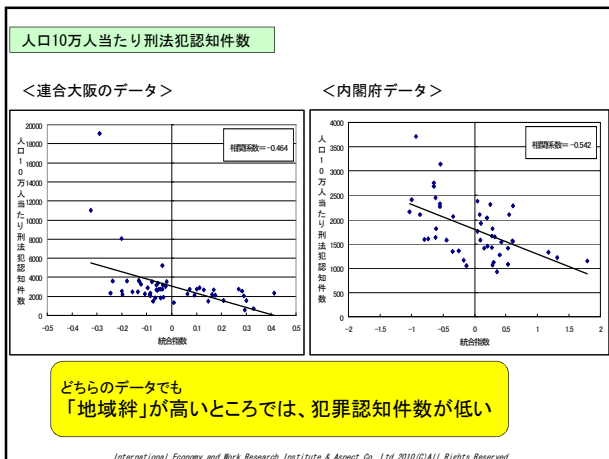
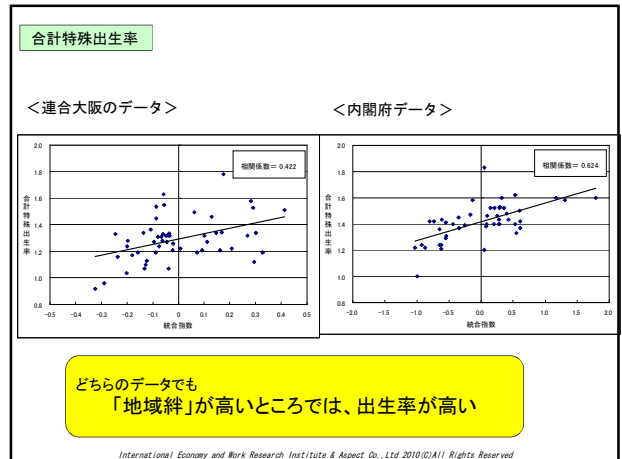
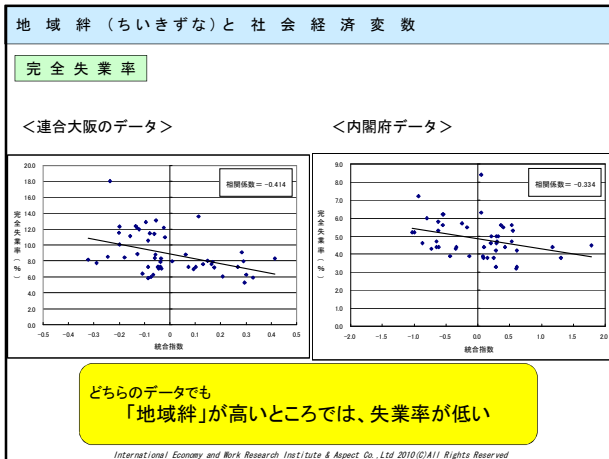
OAKモデル

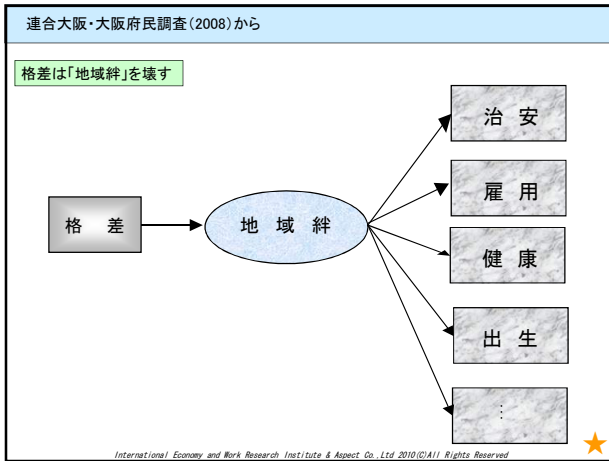
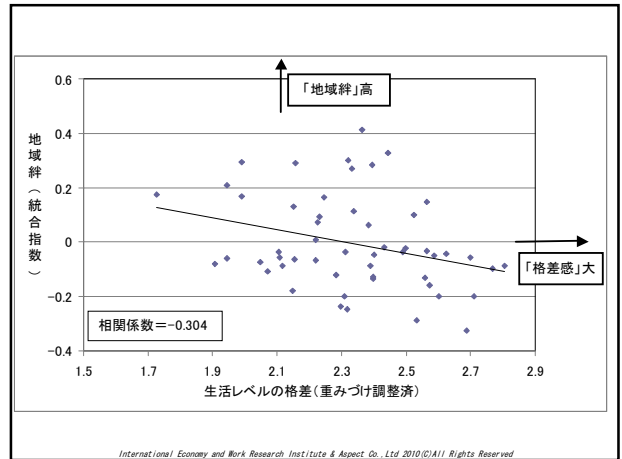
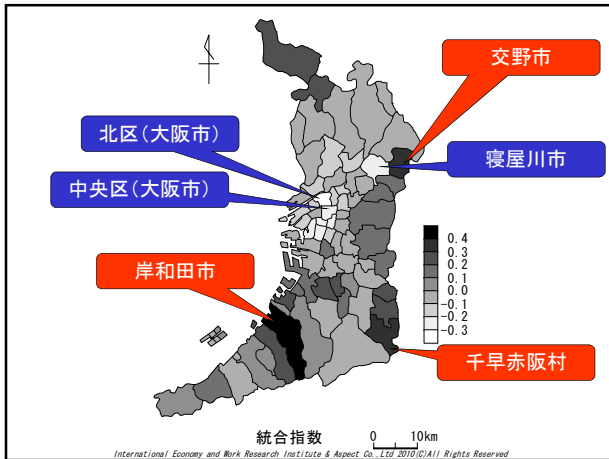
日本の企業文化は「業」よりも「根」が強い傾向がある

- 企業別労働組合
- 内部昇進型経営者
- 終身雇用・年功型賃金
- 間接金融 など

会社は「カネ」のかたまりか、「ヒト」のかたまりか
「根」の強さ「ヒト」重視の指標 = 内発的動機づけ

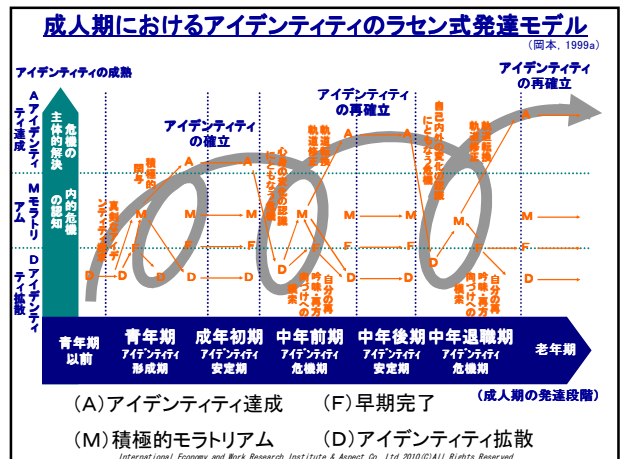
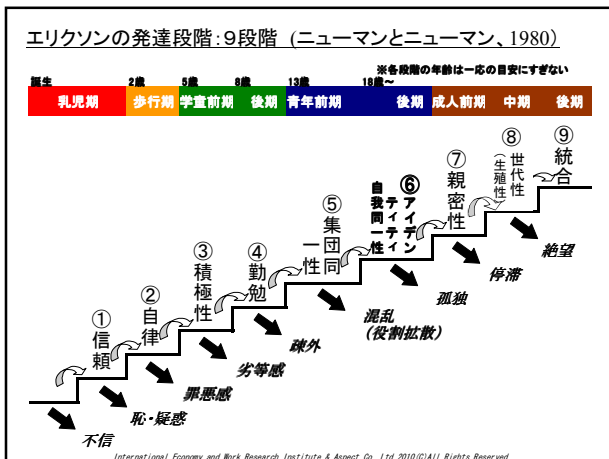
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved

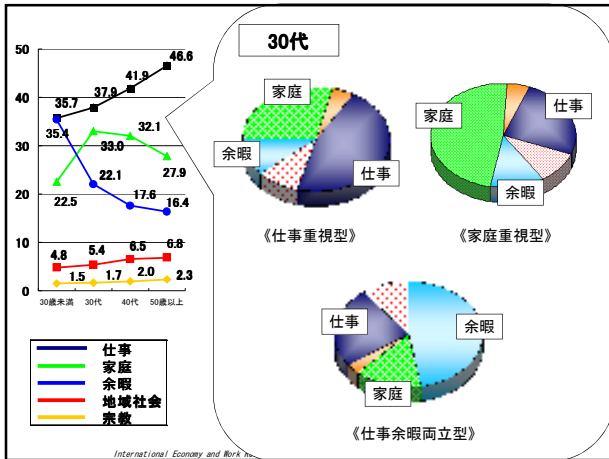




問題提起

- ・お客さまと化した組合員
- ・市場原理主義の功罪
- ・関与していない社員
- ・社会の「ね」: 地域の絆
- ・お客さまは「神さま」なのか
- ・人あつての社会と会社



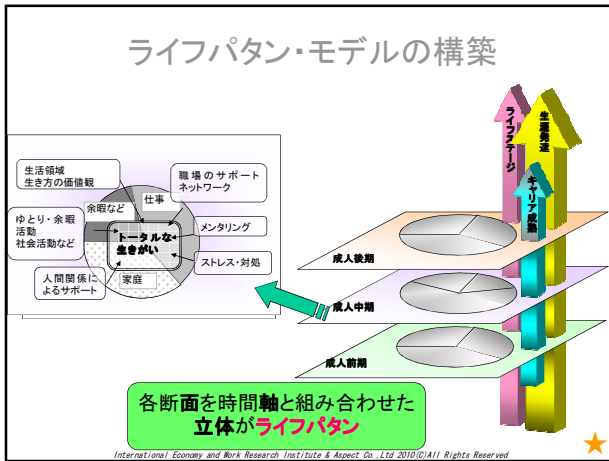


ライフパタン研究の目的と課題

人の多様な「生き方」や「人生」の変遷を量的データから類型化する新しい概念

量的データによって横断的に取り出した生活領域や生活構造と生涯発達の観点からみた発達段階とを組合せることによって統計的に共通のパタンを見出し、立体的に記述しようという試み。

⇒どのように処理し、モデルを構築するか？



ライフパタン調査の概要

i 現在のライフスタイルのパタンの把握

- 質問紙調査による大規模データを分析
- 生活領域タイプをベースに、生活意識やストレス、ソーシャルサポート、ゆとり感、などの状態を加味して、パタン化することが目的

ii 発達のパタンの把握

- 生涯発達段階、キャリア発達段階(職業生活)、ライフステージ(家庭生活)などから、“ライフ・キャリアの展開”パタンを構築することが目的
- 同一(等質)サンプルの時系列変化を追う縦断調査

iii ライフパタンの検討

- ①、②をふまえ、ライフスタイルと発達指標の段階を統合することにより、個人が辿るであろう生涯生活のパタンのいくつかを同定する。
- パタンの把握から“ある時点でこういう生活のあり方の個人は、将来的にはこういうコースを辿って生涯生活を展開させていこう”という予測をすることが可能

人生は多様なもの

- 普遍的な「発達段階」という人生の流れを軸とし、そこに「家族」や「仕事」「余暇、趣味」などの生活上の様々な要素が付加されることにより人生には多様なバリエーションが生まれる。

↓

複数の人生パタン = ライフパタン

ライフパタンの算出

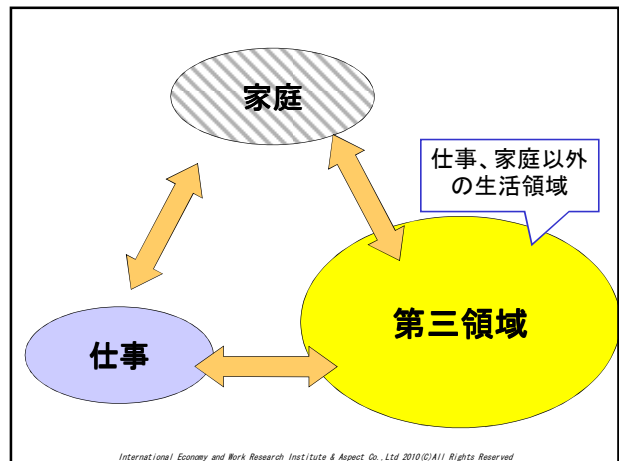
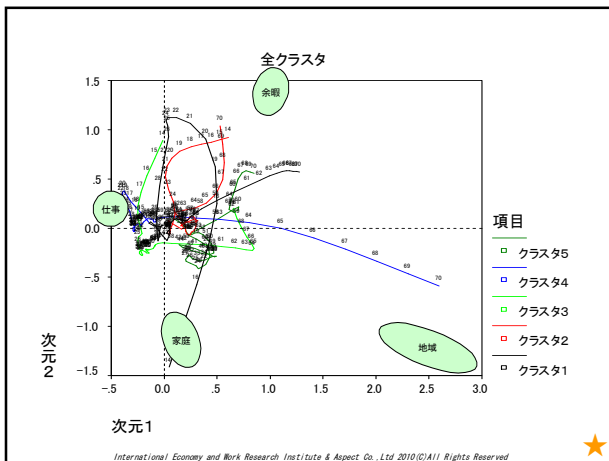
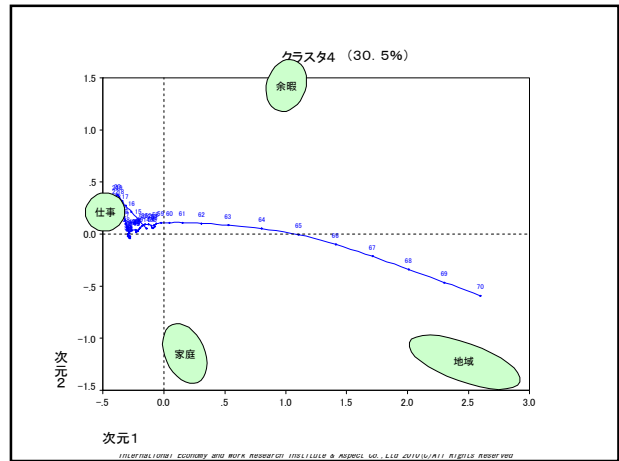
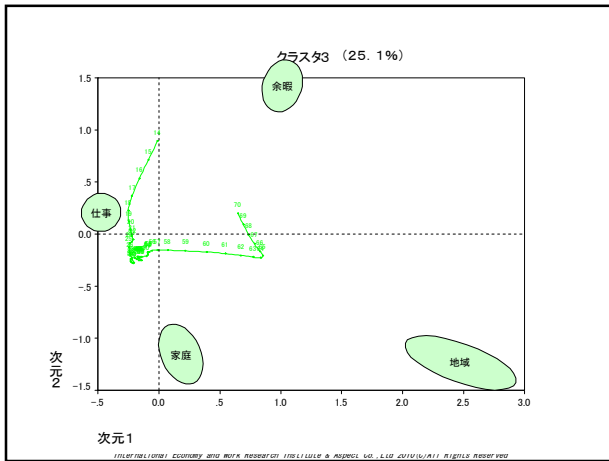
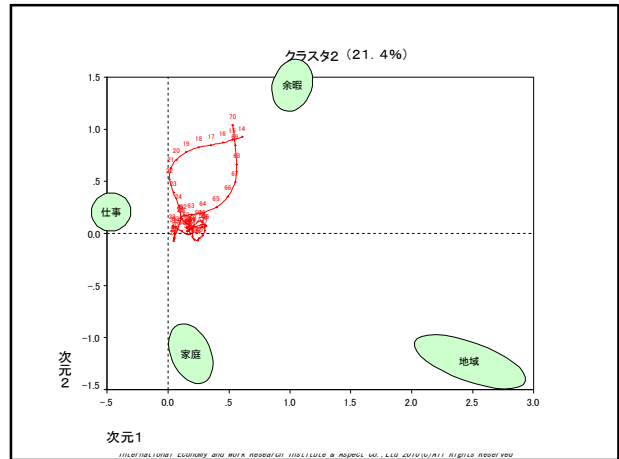
ライフパターン研究のための
多変量経時データ解析

— クラスタリングを伴う主成分正準相関分析 —

足立浩平(2004)

三相因子分析 村上(2004)

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010/01/11 Rights Reserved



分析データ

- ・2005年7月下旬～2007年3月下旬(調査票配布～回収)
- ・配布数 計2671票(32組織)
- ・有効回答数1770名
男性1256名 女性511名 未記入3名

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved



第三領域の活動状況(毎週の休日)

順位	活動内容	%
1	テレビを見る(毎週の休日)	91.1%
2	ショッピング(毎週の休日)	81.7%
3	読書・新聞・雑誌(毎週の休日)	72.1%
4	外食(日常的なものを除く)(毎週の休日)	70.8%
5	ごろ寝・睡眠(毎週の休日)	70.4%
6	家の用事・かたづけ(毎週の休日)	68.5%
7	ビデオ・DVDを観る(毎週の休日)	64.0%
8	家族と過ごす・子供と遊ぶ(毎週の休日)	63.7%
9	インターネット(iモード等を含む)・パソコン通信(毎週の休日)	62.5%
10	特に何もしない・休養(毎週の休日)	57.9%

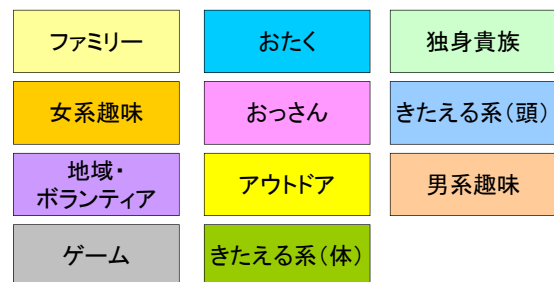
International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

第三領域の活動状況(長期休暇)

順位	活動内容	%
1	国内旅行(長期休暇)	76.2%
2	テレビを見る(長期休暇)	72.1%
3	外食(日常的なものを除く)(長期休暇)	65.4%
4	実家へ帰る・帰省(長期休暇)	64.1%
5	家族と過ごす・子供と遊ぶ(長期休暇)	62.9%
6	ショッピング(長期休暇)	60.3%
7	読書・新聞・雑誌(長期休暇)	57.6%
8	ビデオ・DVDを観る(長期休暇)	57.5%
9	ごろ寝・睡眠(長期休暇)	55.6%
10	家の用事・かたづけ(長期休暇)	54.0%

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

第三領域の構造



International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

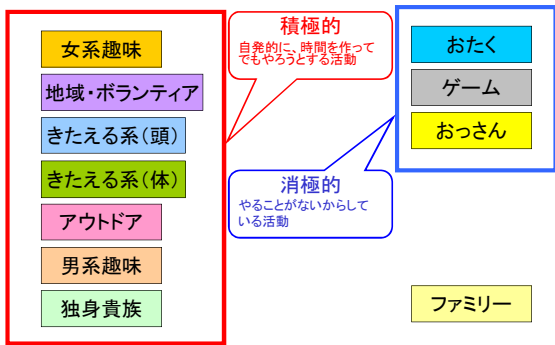
主成分名	主成分の内容	主成分を構成する主な活動
第1主成分【ファミリー】	家族単位で行く場所や活動	●家族と過ごす・子供と遊ぶ ●遊園地・動物園・水族館 ●テーマパーク(ディズニーランド・USJ など)
第2主成分【おたく】	外出せずにひとりで行う活動	●インターネット(iモード等を含む)・パソコン通信 ●パソコン・ワープロ ●家で音楽を聴く
第3主成分【独身貴族】	外出して恋人・友人と行う活動	●デート・友人と過ごす ●カラオケ ●スキー・スケート・スノーボード
第4主成分【女系趣味】	女性的なイメージの趣味活動	●ガーデニング・園芸・庭いじり・盆栽 ●読劇・演芸 ●お茶・お花
第5主成分【おっさん】	世俗的な中年男性のイメージ	●バー・スナック・パブ・飲み屋 ●ゴルフ ●野球・ソフトボール・キャッチボール ●競艇・競輪・競艇など
第6主成分【きたえる系(頭)】	頭を使う・鍛える活動	●自己啓発 ●教育・学習・研究(仕事関連) ●俳句・短歌・小説などの創作活動

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

主成分名	主成分の内容	主成分を構成する主な活動
第7主成分【地域・ボランティア】	イベント、ボランティア、地域での活動	●イベント活動 ●地域活動 ●教育・福祉・医療に関するボランティア
第8主成分【アウトドア】	野外活動	●登山 ●ハイキング・キャンプ・ピクニック ●散歩 ●神社・仏閣・史跡・遺跡
第9主成分【男系趣味】	男性的なイメージの趣味活動	●機械組み立て・機械いじり・模型 ●日曜大工・自分で何か作る ●釣り
第10主成分【ゲーム】	パチンコ・麻雀も含むゲーム	●ゲームセンター・麻雀など ●テレビゲーム ●パチンコ
第11主成分【きたえる系(体)】	体を使う・鍛える活動	●トレーニング・体操 ●エアロビクス・ジャズダンス ●水泳(プール)

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

さらにまとめると・・・



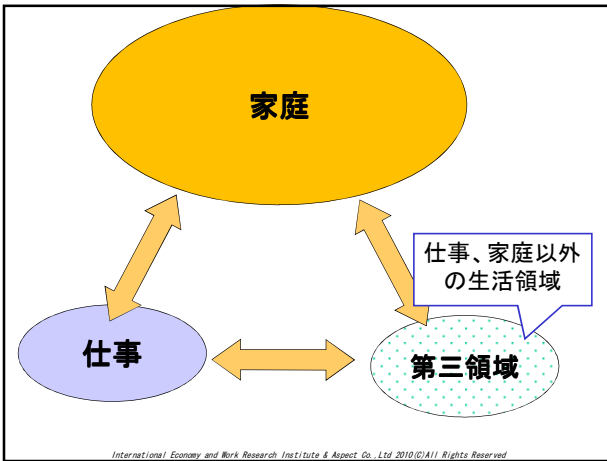
International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 ©All Rights Reserved

第3領域の設問構成

「いつ」
「だれ」と
「なに」を
「どのように」

「なぜ」

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 ©All Rights Reserved



International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 ©All Rights Reserved

因子名	因子の内容	因子を構成する主な項目
第1因子【団らん】	平日や休日に家族と一緒に過ごす。家族旅行やクリスマスなど、イベントを家族で行う	●休日家族と一緒に過ごす ●家族の誕生日を祝う ●家族で旅行に行く
第2因子【家事】	掃除・洗濯などをする	●トイレや風呂の掃除 ●洗濯 ●布団干し
第3因子【育児】	子どもに関することをする	●子どもの身のまわりの世話 ●子どものおしつけ ●子どもと遊ぶ
第4因子【食事】	食事をつくりたり食品を買に行ったりする	●食事づくり ●食品などの買い物
第5因子【年中行事】	盆・正月など、年中行事を家族で行う	●正月に家族と新年行事(お雑煮を食べる、初詣に行くなど)をする ●お盆やお彼岸に家族とお墓参りする ●年末に家族と大掃除をする
第6因子【親類・地域】	親類との連絡や看病、町内の活動	●親の看病・介護 ●親・親戚との連絡 ●町内会・自治会活動
第7因子【生活費】	生活費を稼ぐ	●家計のやりくり ●生活費を稼ぐ

「家庭生活の継続」を規定する要因<3層別> 家族意識調査(2005)

■8因子投入の場合			＜女性(キャリア)＞			＜女性(主婦)＞		
因子	標準偏回	相関係数	因子	標準偏回	相関係数	因子	標準偏回	相関係数
1) 団らんによる楽しさ	0.092	0.092	1) 団らんによる楽しさ	0.091	0.262	1) 団らんによる楽しさ	0.091	0.250
2) 団らんによる楽しさ	0.383	0.409	2) 団らんによる楽しさ	0.383	0.530	2) 団らんによる楽しさ	0.223	0.507
3) 団らんによる楽しさ	0.004	0.003	3) 団らんによる楽しさ	0.009	0.120	3) 団らんによる楽しさ	0.007	0.088
4) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.131	0.043	4) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.099	0.211	4) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.099	0.204
5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.093	0.249	5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.113	0.358	5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.234	0.323
6) 掃除・洗濯による楽しさ	0.217	0.359	6) 掃除・洗濯による楽しさ	0.229	0.420	6) 掃除・洗濯による楽しさ	0.229	0.364
7) 食事に関する楽しさ	0.004	0.003	7) 食事に関する楽しさ	-0.012	0.274	7) 食事に関する楽しさ	0.014	0.384
8) 食事に関する楽しさ	-0.033	0.121	8) 食事に関する楽しさ	-0.039	0.052	8) 食事に関する楽しさ	-0.011	0.131
決定係数	0.290		決定係数	0.324		決定係数	0.419	

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 ©All Rights Reserved

「家庭生活の継続」を規定する要因<3層別> のりしろ調査(2006)

男性		女性(キャリア)		女性(主婦)	
因子	標準化係数	因子	標準化係数	因子	標準化係数
1) 団らんによる楽しさ	0.095	1) 団らんによる楽しさ	0.091	1) 団らんによる楽しさ	-0.029
2) 団らんによる楽しさ	0.293	2) 団らんによる楽しさ	0.232	2) 団らんによる楽しさ	0.288
3) 団らんによる楽しさ	0.007	3) 団らんによる楽しさ	-0.141	3) 団らんによる楽しさ	0.178
4) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.049	4) 掃除・洗濯による楽しさ	0.023	4) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.247
5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.140	5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.148	5) 掃除・洗濯による楽しさ	0.143
6) 掃除・洗濯による楽しさ	0.192	6) 掃除・洗濯による楽しさ	0.244	6) 掃除・洗濯による楽しさ	-0.124
7) 食事に関する楽しさ	0.018	7) 食事に関する楽しさ	0.024	7) 食事に関する楽しさ	-0.021
8) 食事に関する楽しさ	-0.079	8) 食事に関する楽しさ	-0.043	8) 食事に関する楽しさ	-0.023

International Economy and Work Research Institute & Aspet Co., Ltd 2010 ©All Rights Reserved

「家庭生活の継続」を規定する要因 ＜3層別＞

■11歳子投入の場合 <男性> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因				<女性(キャリア)> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因				<女性(主婦)> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因			
項目	因子	標準係数	相関係数	項目	因子	標準係数	相関係数	項目	因子	標準係数	相関係数
11	仕事	0.003	0.433	11	仕事	0.003	0.293	11	仕事	0.003	0.293
2	家庭による楽しみ	0.238	0.164	2	家庭による楽しみ	0.238	0.093	2	家庭による楽しみ	0.238	0.042
3	将来による楽しみ	0.000	0.288	3	将来による楽しみ	0.000	0.124	3	将来による楽しみ	0.000	0.002
4	将来活動による楽しみ	-0.041	0.638	4	将来活動による楽しみ	-0.004	0.203	4	将来活動による楽しみ	-0.004	0.045
5	娯楽・物質の消費	0.115	0.134	5	娯楽・物質の消費	0.029	0.155	5	娯楽・物質の消費	0.043	0.183
6	娯楽・物質の消費	-0.088	0.638	6	娯楽・物質の消費	0.085	0.311	6	娯楽・物質の消費	0.081	0.357
7	収入の豊かさ	0.303	0.392	7	収入の豊かさ	0.239	0.103	7	収入の豊かさ	0.234	0.287
8	収入の豊かさ	-0.044	0.224	8	収入の豊かさ	-0.057	0.189	8	収入の豊かさ	-0.062	0.100

■11歳子投入の場合 <男性> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因				<女性(キャリア)> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因				<女性(主婦)> 「今の家庭生活を続けたい」の規定要因			
項目	因子	標準係数	相関係数	項目	因子	標準係数	相関係数	項目	因子	標準係数	相関係数
11	仕事	0.003	0.433	11	仕事	0.003	0.293	11	仕事	0.003	0.293
2	家庭による楽しみ	0.137	0.497	2	家庭による楽しみ	0.184	0.379	2	家庭による楽しみ	0.137	0.388
3	将来による楽しみ	-0.041	0.413	3	将来による楽しみ	0.025	0.263	3	将来による楽しみ	0.013	0.297
4	将来活動による楽しみ	0.217	0.114	4	将来活動による楽しみ	0.099	0.029	4	将来活動による楽しみ	0.300	0.042
5	娯楽・物質の消費	0.000	0.388	5	娯楽・物質の消費	-0.117	0.134	5	娯楽・物質の消費	0.004	0.002
6	娯楽・物質の消費	0.020	0.134	6	娯楽・物質の消費	0.007	0.125	6	娯楽・物質の消費	0.000	0.183
7	収入の豊かさ	0.150	0.638	7	収入の豊かさ	0.095	0.311	7	収入の豊かさ	0.211	0.357
8	収入の豊かさ	0.244	0.392	8	収入の豊かさ	0.187	0.103	8	収入の豊かさ	0.238	0.287
9	収入の豊かさ	-0.114	0.224	9	収入の豊かさ	-0.031	0.189	9	収入の豊かさ	-0.103	0.100

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

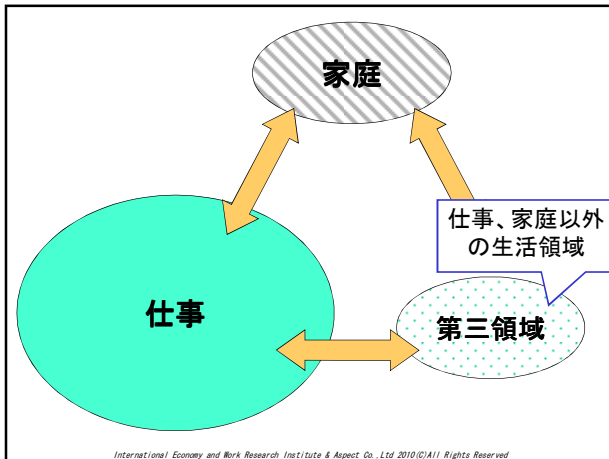
家族する (doing family)

ケアの倫理 (ギリガン, 1986)
と
コミットメント

家族分会 (大野, 2010)

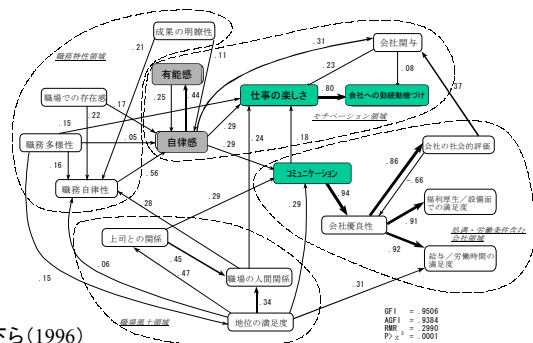
3つの生活領域横断の機能

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved



International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

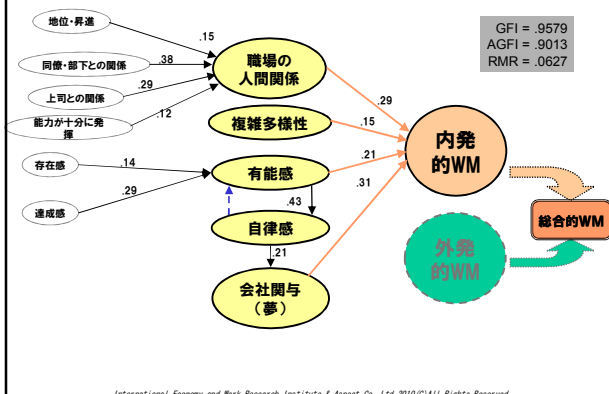
働きがいのモデル



山下 (1996)

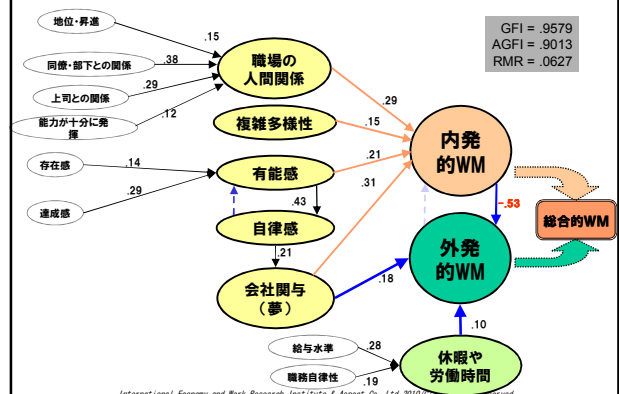
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

内発WMモデル

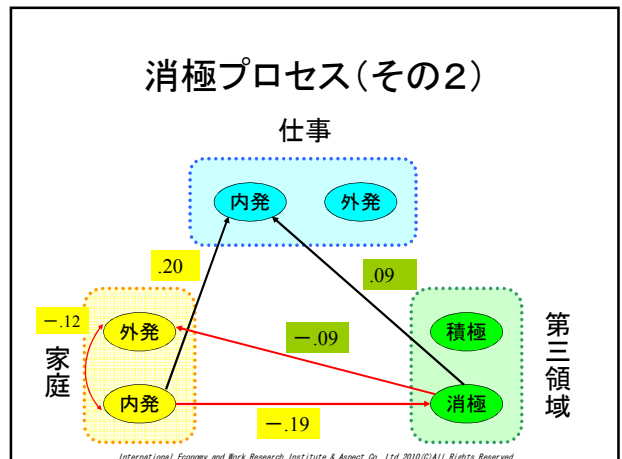
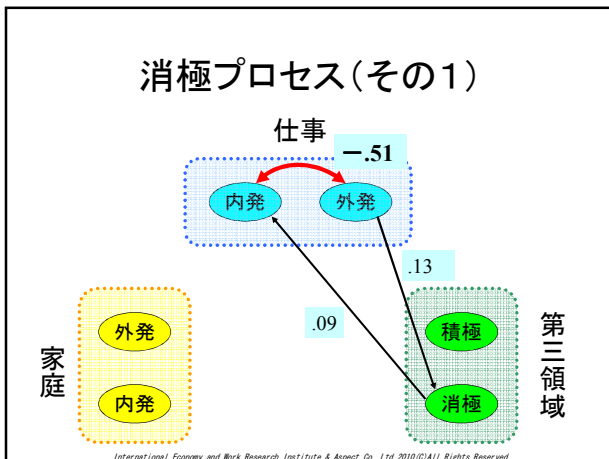
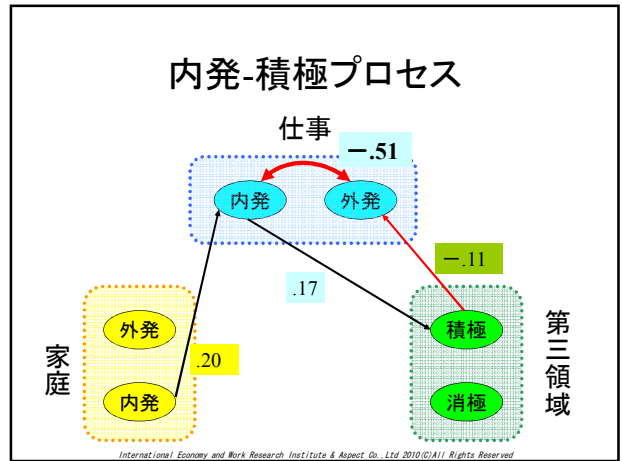
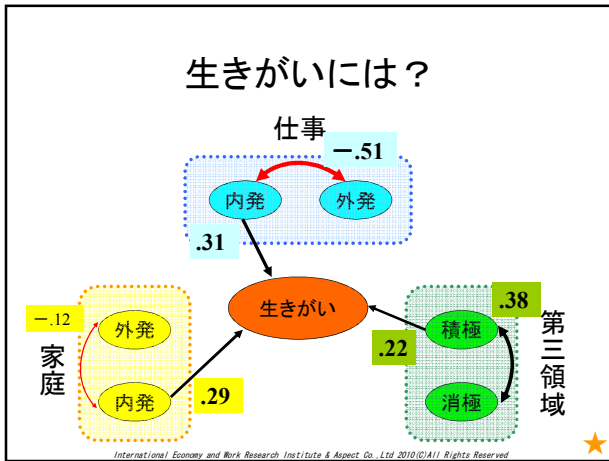
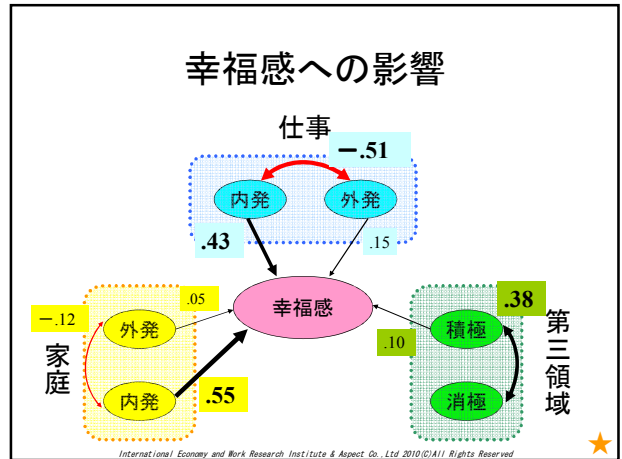
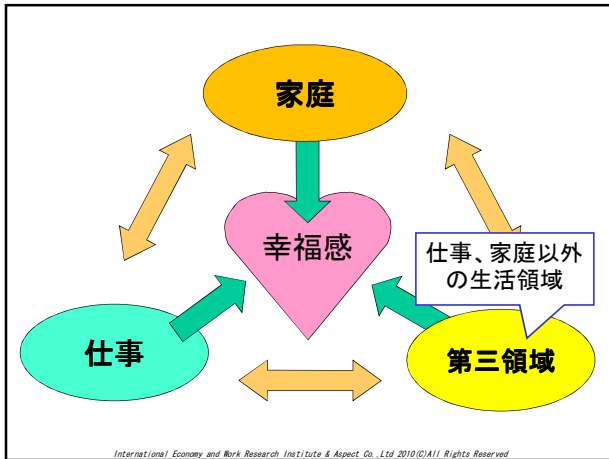


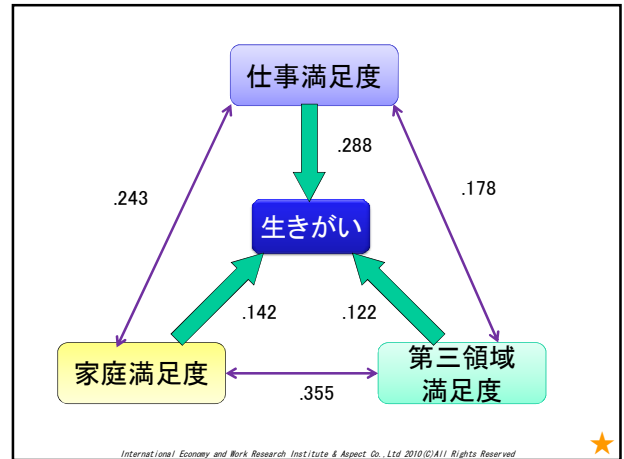
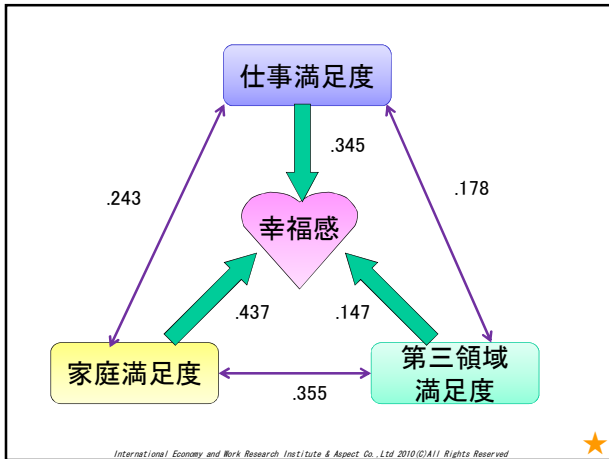
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

内発・外発WMモデル



International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved





ライフ・バランス

- 「仕事」「家庭」「第三領域」それぞれに対して「かける時間」と「生きがい・楽しみ」を配分
- 3領域間のバランスの取り方

一点集中型？ 均等型？

- 幸福感が高まるのはどのような配分？

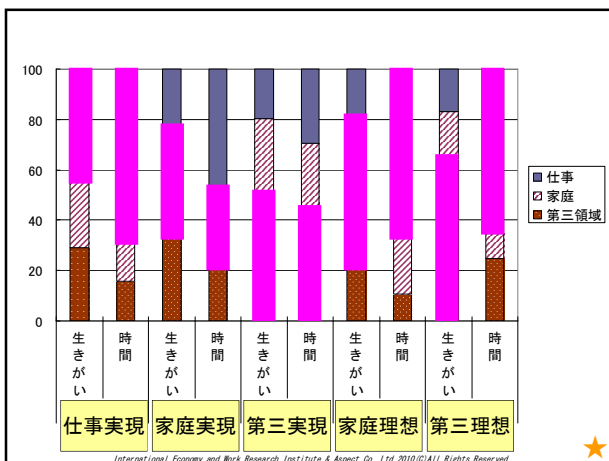
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved

質問方法

- 「職場・仕事」「家庭・家族」「第三領域」の「時間の使い方」「生きがい・楽しみの対象」⇒全体を100として配分してください

	生活領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
仕事	職場・仕事		
家庭	家庭・家族		
第三領域	余暇・趣味		
	地域・社会		
	合計	100	100

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved



タイプ分け

例:

- 時間も生きがいも仕事の得点が最も高い ⇒「仕事実現」型
- 時間は仕事、生きがい第三領域が最も高い ⇒「第三理想」型

阿部ら(2009)

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved

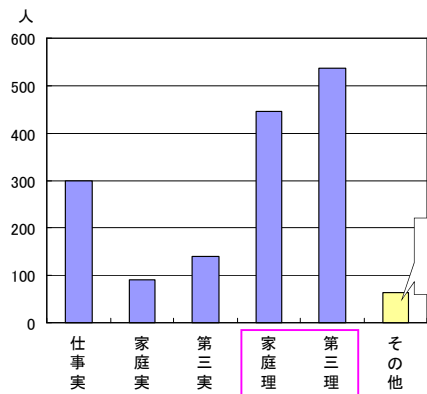
タイプ分けの例

生活領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
職場・仕事	50	35
家庭・家族	40	35
余暇・趣味	10	20
地域・社会	0	10
合計	100	100

家庭理想型

阿部ら(2009)

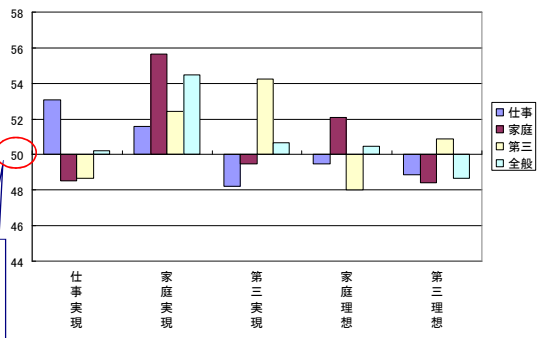
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010(C) All Rights Reserved



阿部ら(2009)

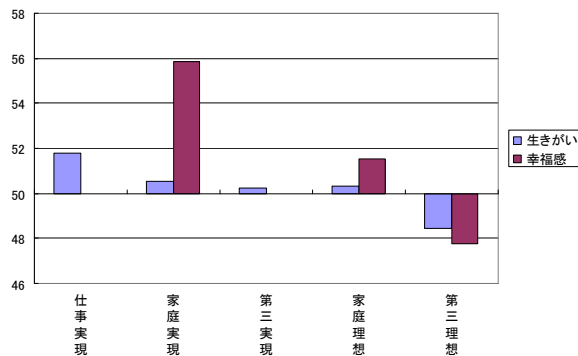
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010(C) All Rights Reserved

各タイプの満足度



International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010(C) All Rights Reserved

各タイプの生きがい・幸福感



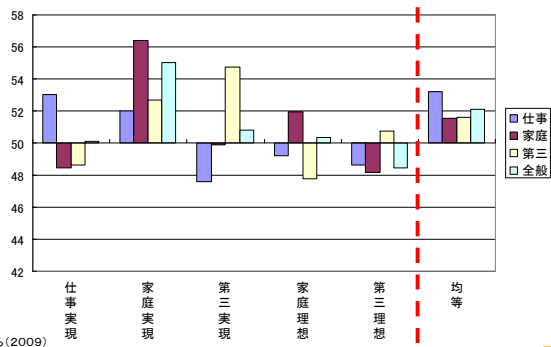
「均等型」の導入

- 時間も生きがいも全領域の得点が25以上 ⇒「均等型」
- それ以外は、従来の5タイプのどれかに分類

活動領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
職場・仕事	40	35
家族・家庭	30	35
余暇・趣味・地域・社会	30	40
合計	100	100

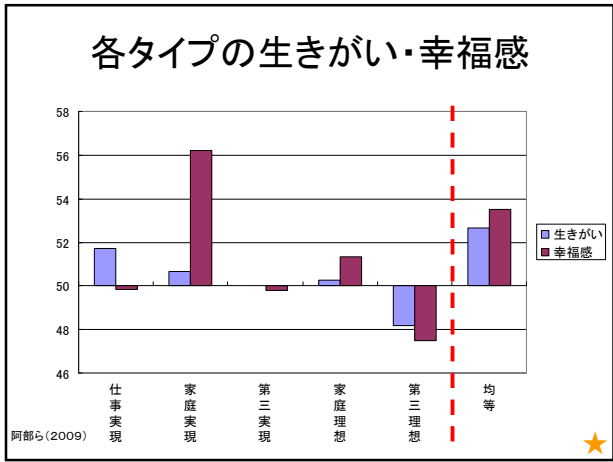
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010(C) All Rights Reserved

各タイプの満足度



阿部ら(2009)

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010(C) All Rights Reserved



さらに詳細な分類

• 「均等型」といっても、全部高いor全部低い？

活動領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
職場・仕事	40	35
家族・家庭	30	35
余暇・趣味・地域・社会	30	40
合計	100	100

「今の仕事が楽しい・生きがいを感じる」

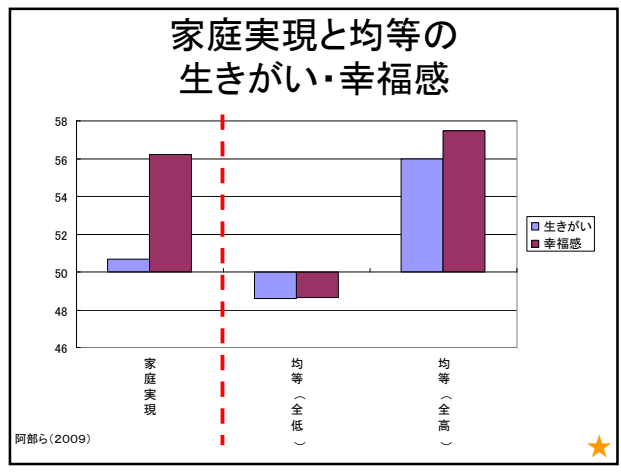
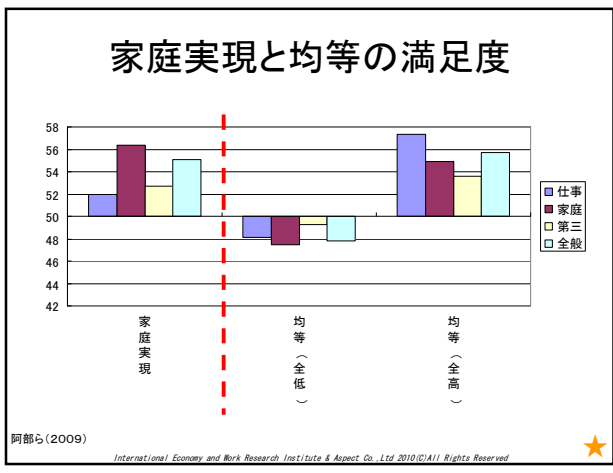
No → 全低型

Yes → 全高型

「仕事」に生きがいを感じていれば、「家庭」「第三領域」も均等に高い(はず)

均等に低いのか？
均等に高いのか？

阿部ら(2009)



さらに詳細な分類

• 「第三領域」といっても、趣味型or地域型？
⇒「趣味」か「地域」の高得点な方に下位分類

「第三実現」

生活領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
職場・仕事	30	10
家庭・家族	20	20
第三領域	50	70
合計	100	100

生きがい、楽しみにある「第三領域」に時間を使っている

生活領域	生きがい・楽しみの対象
余暇・趣味	55
地域・社会	15

趣味型

生活領域	生きがい・楽しみの対象
余暇・趣味	10
地域・社会	60

地域型

阿部ら(2009)

「第三理想」

生活領域	時間の使い方	生きがい・楽しみの対象
職場・仕事	60	10
家庭・家族	20	15
第三領域	20	75
合計	100	100

生きがいは「第三領域」なのに「仕事」に時間を取られている

生活領域	生きがい・楽しみの対象
余暇・趣味	60
地域・社会	15

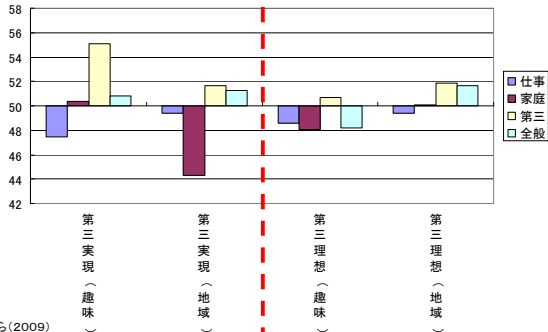
趣味型

生活領域	生きがい・楽しみの対象
余暇・趣味	10
地域・社会	65

地域型

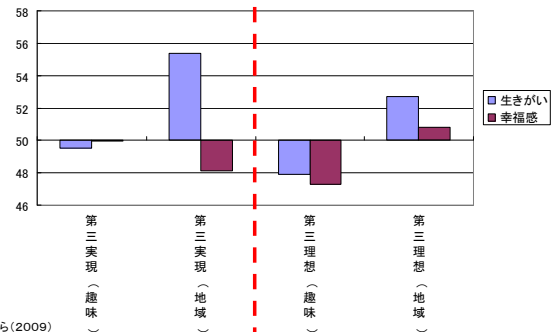
阿部ら(2009)

趣味・地域型の満足度



阿部ら(2009)

趣味・地域型の生きがい・幸福感



阿部ら(2009)

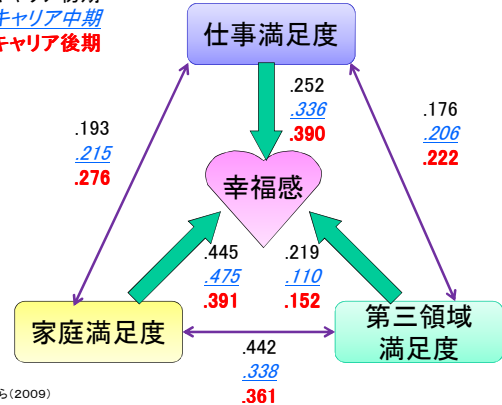
キャリア発達尺度の各項目

阿部・山下・川崎・八木(2009)

- <中期>
- 会社の中で自分が存在する意味は十分にある
 - 仕事について、自分なりに長期的計画を立てている
 - 自分の考えや計画に基づいて、自主的に仕事をしようになった
 - 会社の中で私だけが欠けが欠けない存在である
 - 周りの評価にとらわれず、仕事に関して自分なりに判断する基準を持つようになった
 - 自分自身の仕事に関する意思決定には自信をもつようになった
 - 仕事の成果や実行能力について、自他ともに認められている
 - どのような仕事もキャリアを向上させる機会となるのかを深く分析できている
 - 職業生活の中で自分の可能性をよく理解している
 - 助言や支援を全面的に受け入れるのではなく、自分なりの考えをもつようになった
 - 重要な役割や地位が与えられなくても、それに対して冷静に対処している
- <後期>
- 全体的な管理者として、関係者の仕事を統合し、広く影響を及ぼしている
 - 「血気盛んな」若手をうまく導いている
 - 「この分野では誰にも負けない」と自覚できる経験と実務能力がある
 - 部下や同僚に的確な助言を与え、その結果に責任がとれる
 - 自分の部署をこえる、より広範な責任を任せられても、それを十分に果たすることができる
 - 管理職としての役割を任せられても、それを十分に果たすることができる
 - これまでのキャリアと経験を生かして、会社の発展に貢献している
 - 幅広く、長期的な展望をもって、社会における会社の役割を現実的・客観的に評価している
 - 有望な部下を選抜し、適切な人材開発を行っている
 - 中堅・若手社員への指導を通じて、会社の長期的繁栄に十分貢献できている

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

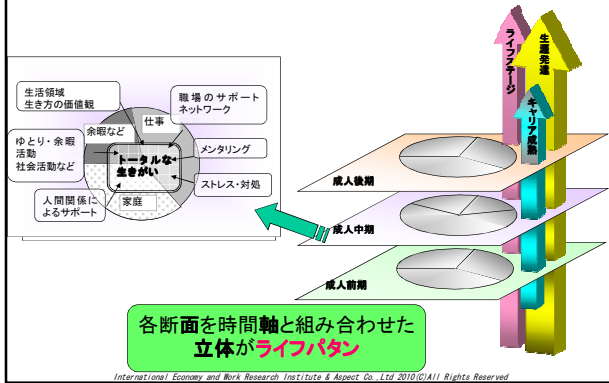
キャリア初期
キャリア中期
キャリア後期



山下(2009)

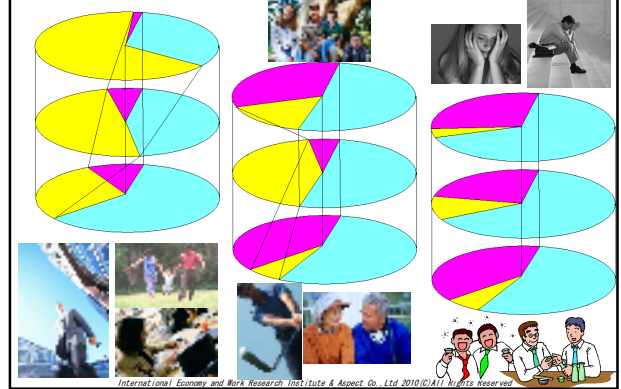
International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

ライフパタン・モデルの構築



International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

ライフパタン・モデルの構築



International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd 2010 © All Rights Reserved

共同研究へのお誘い

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved

予備

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved

まとめ

- 全般的に満足度、生きがい、幸福感が高い
⇒「家庭実現」と「均等(全高)」
- 「仕事」「地域」は生きがい 高、幸福感 低
⇒家庭を犠牲？
- 「趣味」は幸福、生きがいともに低い
⇒バランスの重要性

International Economy and Work Research Institute & Aspect Co., Ltd. 2010 © All Rights Reserved